



にかほ市の「水道事業」 蛇口のむこう側

蛇口をひねると水がでる。私たちの日常生活において当たり前の光景ですが、どのような過程を経て、水源から家庭に水が運ばれるのでしょうか。このページでは、にかほ市における水道事業について、少し考えてみましょう。

にかほ市上水道の歴史

にかほ市の上水道事業は、象潟地域は昭和35年、金浦地域は昭和39年に、仁賀保地域は昭和40年に給水を開始しました。その後、簡易水道を統合したり、浄水方法の変更を行いつつ、現在の給水体系となりました。

また、水源によつて、ご家庭に水が届くまでの過程が多少異なります。象潟地域はわき水や表流水を、金浦地域は白雪川から取水、仁賀保地域は地下水やわき水を水源としています。

おいしい水ってどんな水？

様々な種類のミネラルウォーターが販売されているほど、現代ではおいしい水への需要が高まっています。具体的に、おいしい水とは、どのような水を指すのでしょうか。

水道名	仁賀保地域	金浦地域	象潟地域	目安となる値
蒸発残留物	115	86	67	30～200 mg/ℓ
硬度	36	24	17	10～100 mg/ℓ
遊離炭酸	未検査	未検査	未検査	3～30 mg/ℓ
有機物等	0.3未満	0.3未満	0.3未満	3 mg/ℓ以下
残留塩素	0.175	0.283	0.336	0.4 mg/ℓ以下
臭気強度	異常なし	異常なし	異常なし	異常でないこと
水温	14.5	11.3	9.5	20℃以下

※数値は平成25年11月検査分の平均値
※遊離炭酸は水道法による検査義務のない項目のため、検査していません

水道に求められる耐震化

東日本大震災以降、公共施設・サービスに求められるものに変化が生じています。水道事業においては、安心・安全な水の供給はもちろんのこと、大震災のような大規模災害への耐震性が大きく問われています。

ガス水道局では、災害に備えるため各水道施設の耐震化を進めています。現在、水道施設・管路の耐震化調査を行っており、今後は、その結果をもとに、災害に強い施設づくりを、水道事業の大きな柱としていきます。

新たな料金体系の検討

平成20年3月1日、合併を契機に水道料金の改定が行われました。その際には、旧3町単位で違っていた料金体系の統

水道事業の今後と課題

水道設備は、整備すれば永久的に使い続けていけるものではありません。現在、各家庭に水を供給している水道管や水源から引いている導水管は、敷設からすでに50年以上経過しているものもあります。

そのため、ガス水道局では、漏水などのトラブルが発生しないように、老朽化した水道管の入替工事を計画的に実施しています。毎年、水道管の入替工事に係る経費は平均5千万円にもなります。

水道事業は公営企業による事業なので、にかほ市一般会計からの繰入金や、税金の投入は一切なく、水道事業の運営に係る費用はすべて水道料金で賄わなければなりません。

しかし、大きな工事を実施する際には、公営企業債などを使って行います。公営企業債とは、あくまでも借金なので、利息をつけて借入先に返さなくてはなりません。これから、原水導

さらなる安定供給を目指して

市では、水の安定供給を目指して、広域的な上水道管網構想を進めています。平成19年、象潟・金浦間、仁賀保・金浦間に緊急連絡配水管を設置、さらに平成23年には象潟本郷地区水源から金浦浄水場まで総延長8・2kmの原水導水管の整備を総額4億4千5百万円をかけて実施しました。

この導水管が完成したことで、白雪川渇水時の水不足を本郷からの水で賄うことができ、また、大竹地区の水不足にもこの導水管から水を供給することで、対応できるようになりました。

「水」から「水道水」へ

水源の水が良質でも、その水をそのまま各家庭に配水することはできません。なぜなら、日本は水に関する基準が厳しく、塩素による消毒や毎月の水質検査が法律で義務づけられているからです。

ガス水道局では、安心・安全な水を各家庭に提供するため、各水道施設を職員が毎日巡回・点検をしています。また、それらの施設は24時間稼働しています。蛇口をひねると出てくる水。何気ない日常の風景ですが、それには様々な検査や経費がかかっています。

